



# クレジット創出で森林再生を

森林吸収J-V E R (オフセット・クレジット)を中心に、地球温暖化防止のための排出量取引やC S R コンサルティングなどを展開しているグリーンプラス(東京都千代田区、03・5720・5599)は、年度末までの期間限定で森林吸収J-V E Rの価格を見直し、最大6割強の価格低減を図っている。4月から、J-V E Rと国内クレジット制度を統合した新クレジット制度の運用が始まる予定となっており、新制度施行を見越して排出量取引市場は停滞気味となっている。そこで、同社では価格低減により、市場の活性化を図る。

## グリーンプラス

グリーンプラスでは09年(03・5720・5599)のうちに森林の発足以来、京都議定書に基づいた排出量取引事業を中核として排出量取引事業を推進している。現在では

## J-V E R価格見直し 市場活性化狙う

### 低価格ニーズに対応

森林吸収J-V E Rに特化した事業を進めている。同社の代表取締役を務める飯田泰介氏は「間伐による森林再生に貢献したいというのが原点」と語る。各地の森林組合との協議を経て、大館北秋田森林組合(秋田県大館市など)と連携した事業をきっかけに、官民で幅広く展開している。

飯田氏は、「当社は山林を所有していないのだから、森林組合とのパートナーシップが重要になる」と語る。秋田県内では、消費者の意識改革に

る。一般的なクレジットのプロジェクトを進めている。単なる排出権の仲介ではなく、クレジットの活用を森林再生と地域振興につなげていきたい」と事業理念を語る。そのため、クレジット発行のための書類作成や申請手続き、発行したクレジットの販売だけでなく、クレジット購入者を対象に、創出先である森林の現地ツアーなども開催。地元で還元できるクレジット活用事業として注目を集めている。

特に森林吸収クレジットは、他と比べて価格が高く、低価格のニーズも強い。今回の価格見直しはそうした背景から実施したもの。プロジェクトごとに値下げ幅は異なるが、通常1ト当たり1万5千円のクレジットを、5千円以下にまで値下げしている例もある。新制度の施行を控え様子見している購入者も多い中、市場活性化により取り組みの普及拡大を目指す。